

大阪大学グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」
「コンフリクトの人文」セミナー 第47回

敵性の構築と溶解—東アフリカ牧畜地域の低強度紛争の事例から

講師：佐川 徹（日本学術振興会特別研究員／大阪大学）

要旨：

冷戦終結後に民族浄化をその極とする凄惨な組織的暴力が噴出したことを背景に、「敵」という集団範疇がいかなる過程を経て形成されるのかに注目が集まっている。近年の議論でとくに強調されるのは、人種主義的な表象を操作する政治企業家やその表象を一般大衆に喧伝するマスメディアの役割である。

発表者が研究対象とするエチオピア・ケニア・スーダンの三国国境付近では、牧畜集団間の武力紛争が長年にわたって頻発してきた。もっともこの地域は国家の再周縁地域に位置しており、紛争における政治企業家やマスメディアの役割はいまでも小さい。その意味で、本発表で扱うのは「最先端の」紛争ではない。そのかわりに本発表では、集団を構成する個人の視点に立って、「下から」敵性が構築され、またそれが溶解する過程を丁寧にたどりたい。

まず発表では、「敵」をめぐる人びとの日常的な会話、「敵」への憎悪を増幅する文化装置、個人間のトラブルが集団間の武力衝突へと激化する過程を明らかにして、「潜在的な敵／友」であったはずの他者が、ただ殺すべき「絶対的な敵」へと変貌する経緯を示す。一方、この地域には集団間の境界を越えた個人間の友人関係や親族関係が多く存在している。そこで、これらの横断的紐帯がいかに一度激化した敵対関係を戦闘中・戦闘後に溶解し、平和的な関係の回復に寄与しているのかを明らかにする。

講師紹介：

2009年、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了。博士（地域研究）。東アフリカ牧畜社会の集団間関係や治安問題に関心がある。最近のおもな業績（いずれも共著）に、Local potential for peace (*To Live with Others*, Köppe, in press)、*「東アフリカ牧畜社会の小型武器と武装解除」*（『紛争解決』ミネルヴァ書房、印刷中）、*「『いい肉』とはなにか」*（『動物と現代社会』吉川弘文館、2009年）などがある。

日時：2010年4月23日（金） 17:00 ~ 19:00

会場：大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス） 東館1階 106教室（参加無料）

東館は、万博外周道路側の別館です。大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）への交通アクセスは <http://www.hus.osaka-u.ac.jp> をご参照ください。

お問い合わせ先：

大阪大学大学院人間科学研究科人類学研究室

e-mail: globalra@hus.osaka-u.ac.jp

電話 06-6879-8085 / 06-6875-5111

